

論作文試験実施のねらいと受験対策

論作文試験の実施状況

1 論作文試験の実施形態

論作文試験は現在、ほとんどの都道府県・市で実施されている。論文試験あるいは作文試験を正式に試験科目として募集要項に明記していなくても、教職教養などの枠の中で事実上の論作文試験を実施している県・市を含めると、論作文試験はほとんどすべての県市で行われていることになる。

教職・専門や面接と並び、今では教員試験の重要な試験科目の一つとなっている。近年の教員試験の選考方法の多様化の傾向の中で、論作文はどの県・市でもその重要性が注目され、今では教員試験の突破には論作文試験対策なしでは考えられないようになってきている。しかし、最も対策が立てにくいのも論作文試験である。

論作文試験について考えてみると、教職・専門教養試験とは異質な、ということは逆に面接試験とかなり性質の近い試験だという通念がある。これはある程度当たっている。

ただ、試験の実施時期の方は、面接試験はほとんどの教育委員会が2次中心に実施しているのに対し、論作文試験は1次試験で実施する県と2次試験で実施する県にわかれ、県によっては両方で実施するケースもある。そもそも1次試験というのは、教師として最低限必要とされる知識を有している人物を選び出し、教師としての適性のある人を2次選考にかけるといった性格のものであるから、試験方法の多様化により一概にはいえないが、それでも重要な比重を占めているといえる。

つまり実施時期から見ても、やはり重視傾向がうかがえるということになる。実施県数の多さと実施時期との両面から見て、「論作文試験は

予想以上に重視されている」ということがわかってきたが、なぜ重視されているかについては後述することにして、ここではさらに、論作文試験の実施概要についてまとめておくことにする。

試験の実施スタイル、つまり試験時間、字数制限などについて見てみよう。

まず、試験時間について。短いところでは35分から、長いところでは120分まで、様々だ。

90分とか80分という県については、教職教養や、一般教養とあわせて、という例が多く、実質的には50分から60分の範囲にはいるものと考えてよい。それも含めて総体的に見ると、試験時間を60分としているところがほとんどである。1時間という単位そのものは、生活感覚からいっても感じがつかめるはずだ。

字数のほうは、多くて2,000字、少なくとも400字というところで、もっとも例が多いのは800字。中には無罪とか字数制限なしというところもある。

決められた制限の中で文章をまとめる練習をするのが、基本的準備の一つとなろう。字数・制限時間（11頁参照）については、志望県の出題傾向も含めて考えておくようにしたい。

2 論作文試験の出題傾向

論作文試験の課題についてはいくつもの分類方法があるが、ここでは、

- A 教師を志した動機・教職につく場合の心構え等についての出題
- B 教育観・教職観・学校観等についての出題
- C 具体的指導等についての出題
- D 一般的課題による出題

以上の4つのグループに分類してみた。実際に